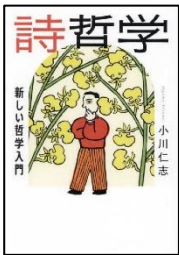


Book Preview

富山高校図書館 2026.7



『 詩哲学 』

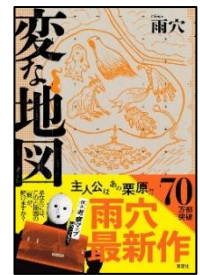
小川 仁志【著】

著者は、これまで一貫して哲学の世界で文章を書いてきた。ところが、仕事の関係で詩に触れる機会が偶然重なり、詩が放つ独特の雰囲気魅了された。そこで、詩の自由な表現方法で哲学の厳密な内容を表せないかと考えるようになった。本書はソクラテスからニーチェ、そして老子など、有名な哲学者とその哲学思想を詩として味わいながら、哲学の森へと入っていく。難解な哲学も不思議に理解できる！新しい哲学入門。

『 変な地図 』

雨穴【著】

10年前……青年、栗原は就職活動がうまくいかず悶々とした日々を過ごしていた。そんな折、奇妙な事実を知る。彼が生まれる前年、祖母・知嘉子が一枚の古地図を握りしめたまま不可解な死を遂げたのだという。母は最期まで、知嘉子の死の理由と古地図の謎を追い続けていた。が、未完成の調査記録を遺してこの世を去った。「母の無念を晴らせば、何かが変わるかもしれない」……栗原は真相を見つけるべく、遙か遠くの地へ旅立つ。そこで待ち受けていたのは、海沿いの廃集落、不可解な人身事故、因縁に満ちたトンネル、そして古地図に秘められた悲しき事実だった——。“変な家”の栗原が青年時代に遭遇したかつてないマップ・ミステリー開幕！！



『 特許やぶりの女王 弁理士・大鳳未来 』

南原 詠【著】

特許権を盾に企業から巨額の賠償金をふんだくっていた凄腕の女性弁理士・大鳳未来が、相方の弁護士と共に防衛専門の特許法律事務所を立ち上げた。今回のクライアントは、映像技術の特許権侵害を警告され、活動休止を迫られる人気VTuber・天ノ川トリィ。調査に乗り出した未来は、さまざまな企業の思惑が絡んでいることに気づき、いちかばちかの秘策に…！2022年第20回『このミステリーがすごい！』大賞受賞作。

『 銅鐸の絵を読み解く 』

国立歴史民俗博物館【編】

本書は、1995年秋に開かれた国立歴史民俗博物館の歴博特別展「銅鐸の美」と、それに付随して行われたシンポジウム「歴博フォーラム 銅鐸の絵と子どもの絵」の成果をもとに、銅鐸の表面に描かれた絵画の解読を試みる誰にでも楽しめる考古学討論。考古学の金関恕・佐原真・春成秀爾の三人の考古学者に加え、児童絵画を長年研究してきた東山明・東山直美の両氏と、劇画家で作家で音楽大学学生の池田理代子氏が参加し、興味深い討論を繰り広げます。また、カラー口絵には、加茂岩倉の銅鐸の絵画などを掲載、巻末資料として全銅鐸絵画の図を収録しました。弥生時代の日本を解き明かす鍵といえる銅鐸の謎を考える際に必読の一冊です。



『 青天 』

若林 正恭【著】

人にぶつかっていないと、自分が生きているかどうかよくわからなくなる——。総大三高の「アリ」こと中村昂が所属するアメフト部は、万年2回戦どまり。相手校の練習を隠し撮りして迎えた高3の引退大会では、強豪・遼西学園に打ち破れた。引退後、みなが受験に向かうなか、勉強にも気持ちが入らず、不良になる覚悟もないまま宙ぶらりんの日々を過ごす。自分自身の不甲斐なさにもがき続けるなかで、アリは再びアメフトと向き合う決意を固める。青春の苦みと悦びに満ちた、著者渾身の初小説。